

核兵器廃絶めざす政府やNGO（非政府組織）、草の根の力強い動き、最低賃金15ドル（約1800円）時給）をめざす米国の労働者のたたかい、反緊縮を掲げたヨーロッパ各地の国民の運動、東南アジア諸国連合（ASEAN）にみられる地域平和機構づくり…「赤旗」の国際報道には、大手メディアが伝えない視点や情報が詰まっています。「国際面が大好き」「赤

## 海外でも貴重な情報源

旗を読まないと世界のことが分からない」などの声が寄せられています。他方、世界で「赤旗」はどうみられているのか。ことし3月、米西海岸ワシントン州シアトルのワシントン大学の図書館の新聞閲覧コーナーに日本や東南アジア諸国の主



反原発の運動などが研究テーマの同大学院生、ダグラス・ミラーさんはこう語ります。「朝日」や『日経』だけだと情報に限られる。「赤旗」がないと正直きびしい。毎日読んでいます」（本紙3月29日付）韓国では赤旗編集局の本が次つぎ翻訳・出版さ

『原発の深層』（右）とその韓国語版。要紙と並んで「しんぶん赤旗」が入った、と話題になりました。同大学はアジア研究で有名ですが、なぜ、「赤旗」なのか？

「日本ではメディアや専門家が多くの安全や災害に関する本を書いているが、原子力村を暴いた本はないと思っていた。が、ついに手に入れたのが『原発マフィア』だった」『赤旗』は、日本の巨大メディアが取り上げなかつた原発マフィアの心臓にメスを入れた」

れ、話題になっていきます。その一つ、「原発の深層」は、『原発マフィア』のタイトルで昨年出版されました。翻訳者の洪相鉉（こう・しょうげん）さんが本紙文化欄（2014年11月17日付）で、韓国紙に掲載された環境専門ジャーナリストによる書評を紹介しています。